

事例① 積水化学グループにおける CN・CE社会の実現をめざしたものづくりへの移行

2026年2月3日
(15分+質疑5分)

積水化学工業株式会社
ESG経営推進部
環境経営グループ 三浦 仁美

事業領域

解決したい社会課題

現有事業

住・社会のインフラ創造
住宅・パイプ関連事業など長い歴史のある製品・事業においては、お客様の声や時代の要請を受け、さらなる付加価値の創出により進化を続けていきます。

ケミカルソリューション
エレクトロニクス・モビリティ分野、メディカル事業においては、既存のお客様の要望に合わせた製品開発のみならず、新たなお客様の開拓・M&AやCVCを通じた新製品の開発にも積極的に取り組んでいきます。

レジデンシャル

ひとびとの安心・安全、快適な暮らしを支える

住宅カンパニー

住宅、リフォーム、不動産、まちづくり、住生活、海外

アドバンスライフライン

グローバルにインフラ課題を解決し社会基盤を支える

環境・ライフラインカンパニー

パイプ・システムズ、住・インフラ複合材、インフラリニューアル

イノベティブモビリティ

社会・暮らしを進化させる様々な機器の発展を支える

高機能プラスチックカンパニー

エレクトロニクス、モビリティ、インダストリアル

ライフサイエンス

グローバルに健康・長寿社会を支える

メディカル事業(コーポレート)

検査、医療



エネルギー自給自足を目標とするスマートハウス[スマートパワーステーション]



スマート&レジリエンスなまちづくり



工業化が進んだ住宅生産工場内部



住宅生産工場(ユニット)



住宅ユニットの送電向け風車



省スペースに収まる蓄電池システム



改装リフォーム



異取再販[Be-Hi-AM]



耐熱型変性ポリエチレン管



耐腐食・耐薬品性態のプラント管材



管路更生工法[SPR工法]



大型雨水排水システム



鉄道向け合成床くらげ[FFU]



熱膨張性耐火材



塩素化塩ビ樹脂 コンパウンド



雨水貯留槽[クロスウェーブ]



ディスプレイ・電子機器向け導電性微粒子



半導体向け実装材料



スマートフォンやタブレットに使用される液晶部材固定用両面テープ



自動車バンパー向け成型品



自動車向け合わせガラス用中間膜



航空機向け部材



電気自動車向け放熱 그리스



航空機内装向けプラスチックシート



コレステロールの検査薬



プラスチック製真空採血管



分析装置



感染症迅速検査キット



薬学研究用機器



医薬品原薬(API)



創薬支援(受託試験)



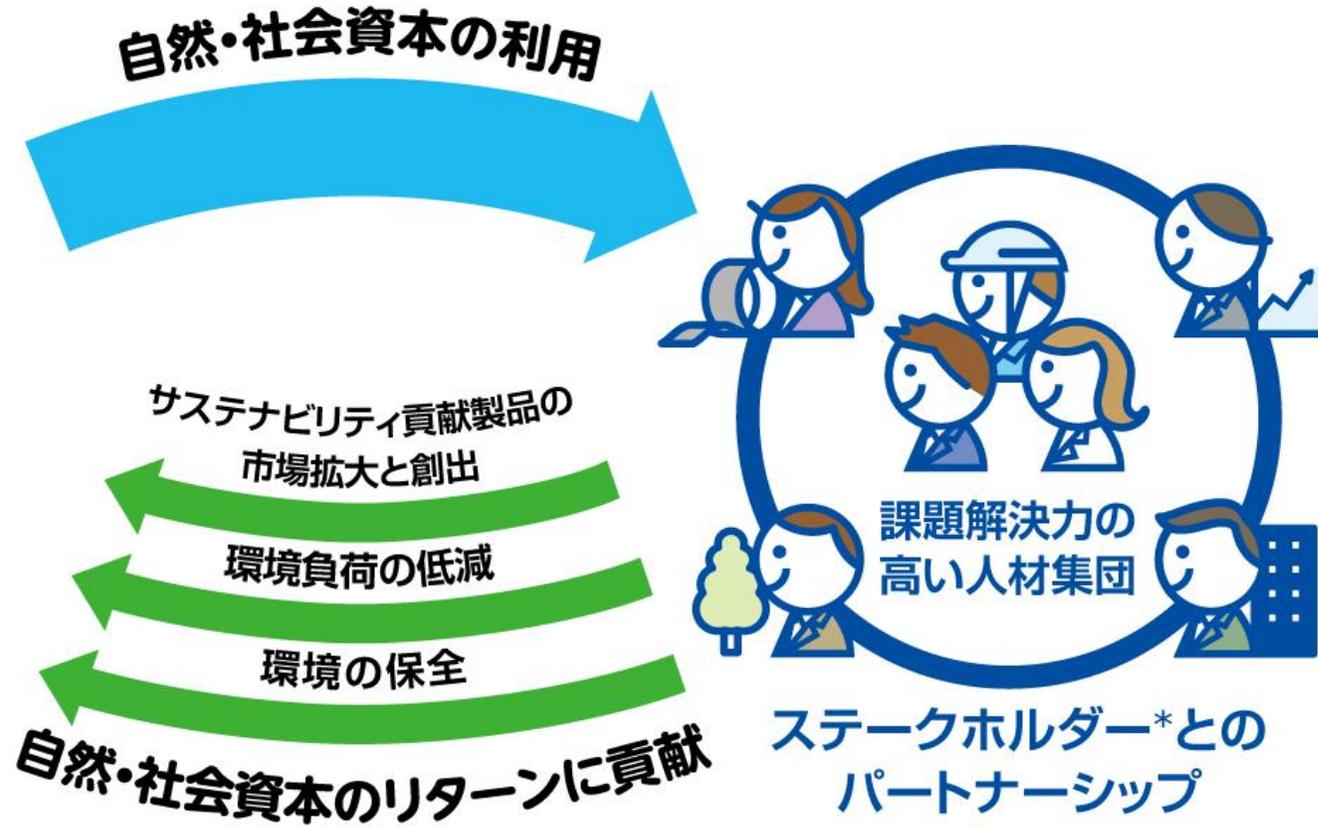
バイオ医薬品原料

建築分野に関連した事業：住宅、建築材料(インフラ)、建物設備で使用される材料(デバイス)

環境長期ビジョン2050



生物多様性が
保全された地球



*ステークホルダー：「お客様」、「株主」、「従業員」、「取引先」、「地域社会・地球環境」

環境課題ごとの長期ゴール

2050年

生物多様性が保全された地球

(1) 気候変動

2050年
GHG排出ゼロの
実現



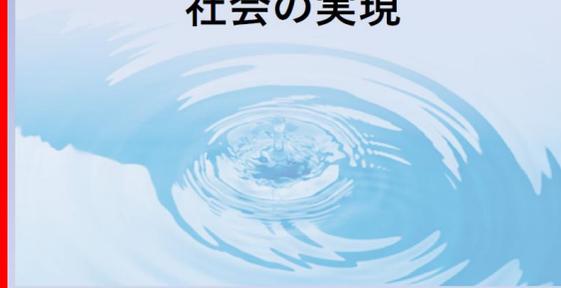
(2) 資源循環

2050年
サーキュラー
エコノミーの実現

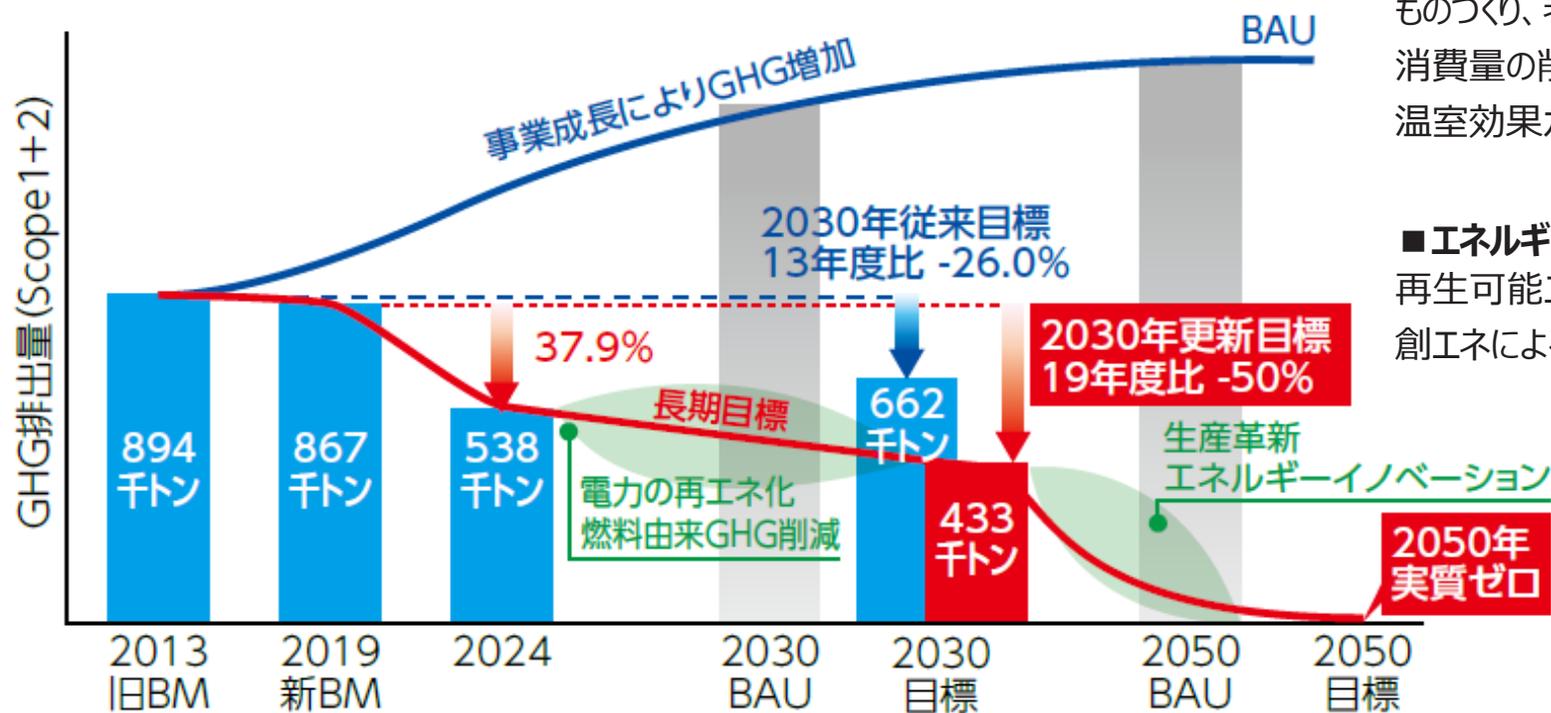


(3) 水リスク

2050年
健全な水に満ちた
社会の実現



温室効果ガス排出削減ロードマップ



■エネルギー消費革新：
ものづくり、老朽更新等で
消費量の削減による
温室効果ガス削減

■エネルギー調達革新：
再生可能エネルギーの積極活用、
創エネによる温室効果ガス削減、

■生産プロセス革新：
技術的イノベーションによる
燃料転換で削減

環境貢献投資 (2017-2019)
(120億円(売上/3年の0.3%)

- ・環境貢献投資促進策 (ICP) の運用
- ・社長表彰の設定(温暖化対策優秀賞)

(2020-2022)

ESG投資**(400億円/3年)活用**
・再エネ電力採用促進策
(ICP) の運用

(2023-2025)

ESG投資**(300億円/3年)活用**
再エネ電力転換・燃料由来GHG
削減の設備投資に対する支援

エネルギー消費革新
老朽設備更新の促進

エネルギー調達革新
創エネ、購入電力再エネ転換

排出権取引

生産プロセス革新
燃料由来GHG 削減の前倒し

RE100 | CLIMATE GROUP

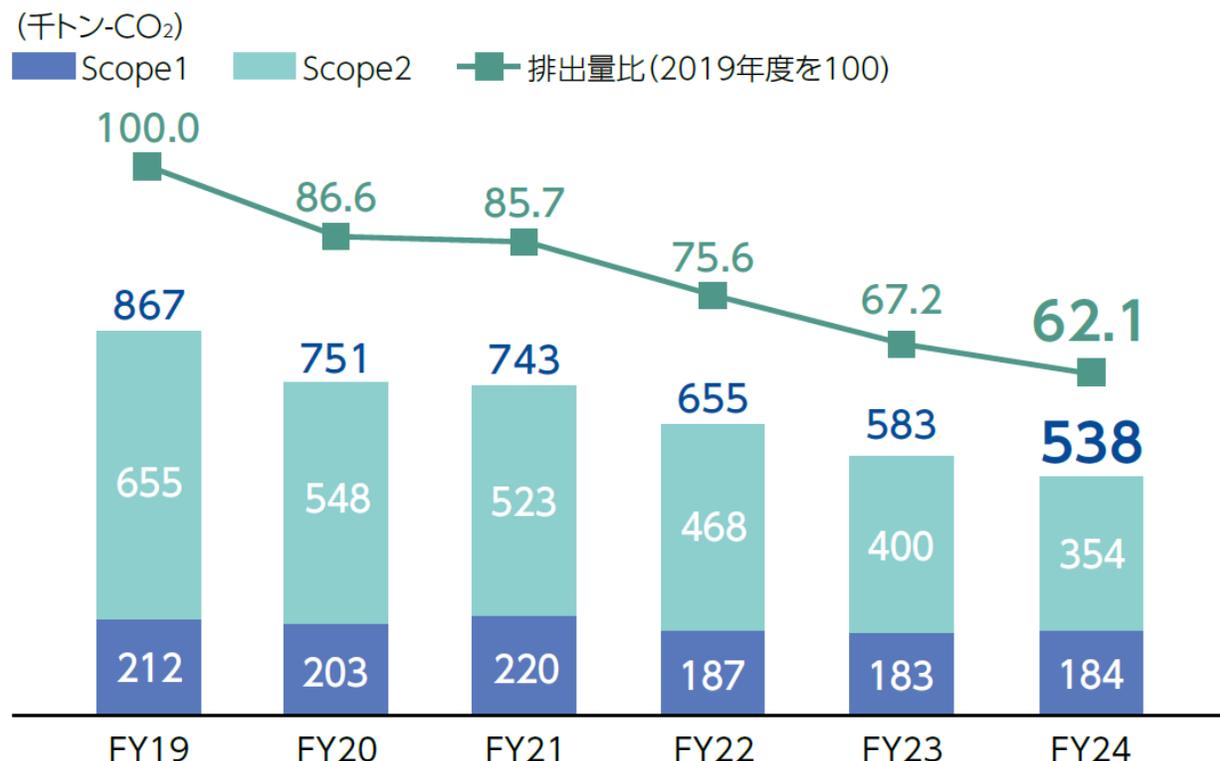


2020年 8月 : RE100に加盟
2023年 3月 : SBT認証再取得

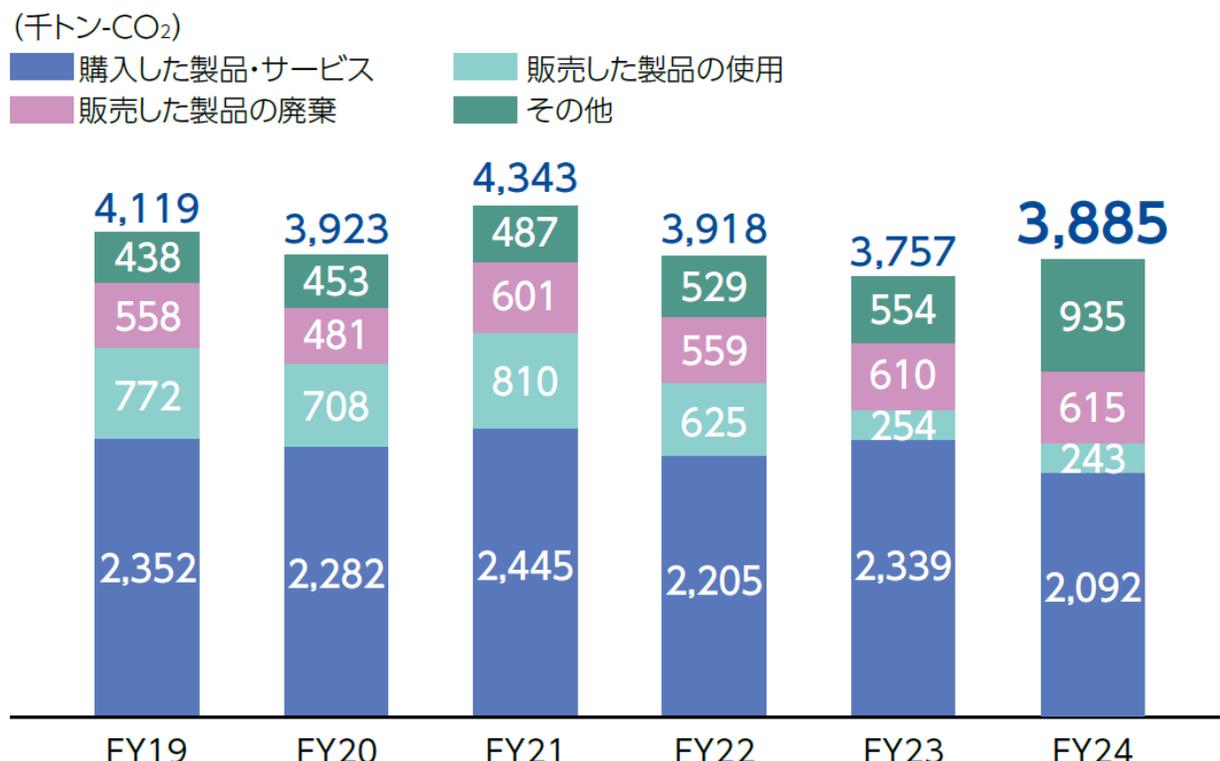
※BAU (Business As Usual) : 通常の経済活動に伴い、増加する排出量

サプライチェーン上流に位置づけられる製品ほど、ものづくりにおけるGHG排出量は

事業活動によるGHG排出量(Scope1+2)



サプライチェーンのGHG排出量(Scope3)



**自社の企業活動におけるGHG排出量 (SCOPE1+2) は削減目標前倒し設定するも
サプライチェーンにおけるGHG排出量 (SCOPE3) の削減は今後の課題**

2022年にはサプライチェーンにおけるGHG排出量削減のために資源循環の重要性を再認識し資源循環戦略・ロードマップを策定

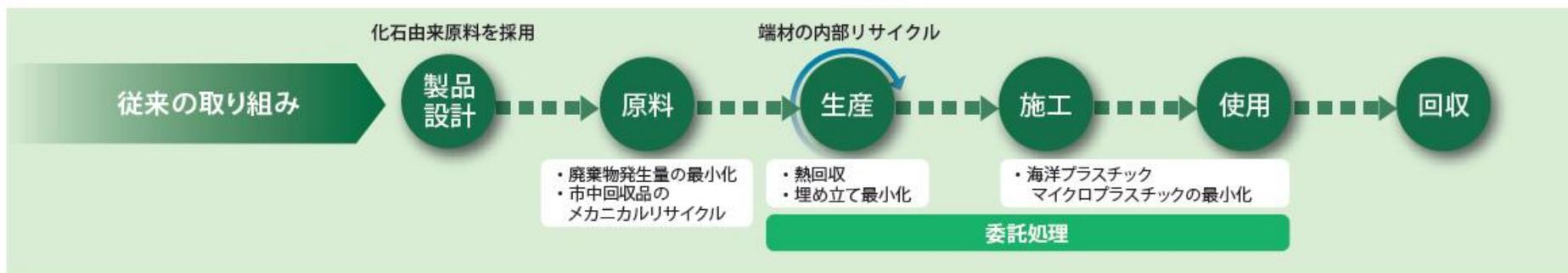
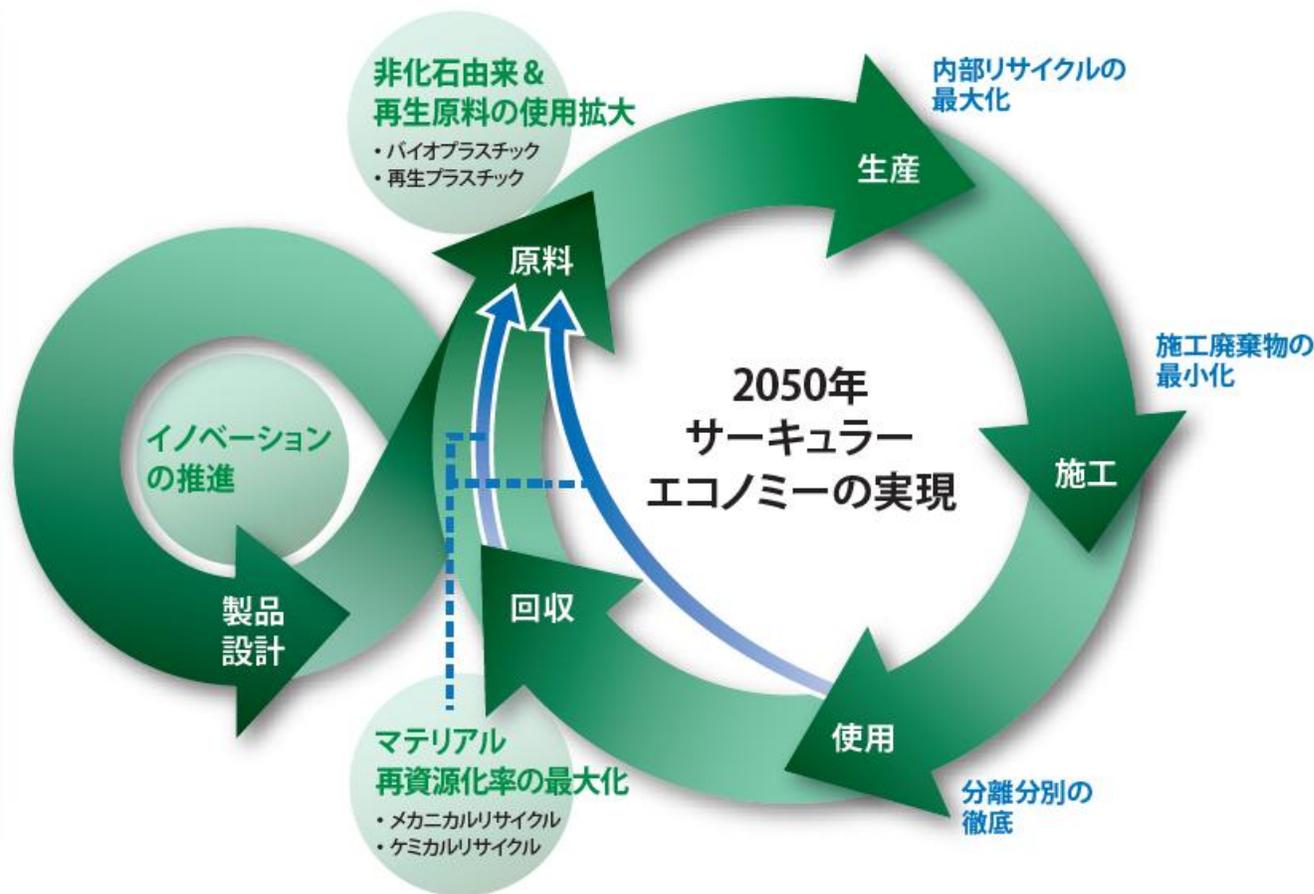
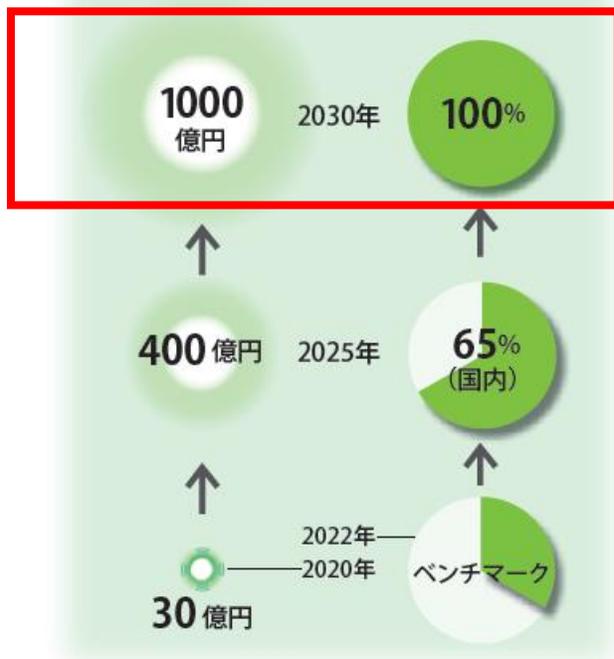
2022年3月 SBT認証再取得時には、この戦略を反映し、目標達成手段として資源循環の取り組みを設定

	従来目標	更新目標	更新目標達成の手段
Scope1+2	基準年：2013年 目標年：2030年 削減率：26%（2℃目標）	基準年：2019年 目標年：2030年（変更なし） 削減率：50%（1.5℃目標）	従来の購入電力の再エネ化に追加し、 低炭素燃料へ転換、電化、生産革新による燃料由来GHG削減の取組み前倒し
Scope3	基準年：2016年 目標年：2030年 削減率：27%	基準年：2019年 目標年：2030年（変更なし） 削減率：30%	資源循環の取組み（非化石原料へ転換、再生材料の使用拡大、廃棄物の再資源化）を追加し、 カテゴリー1,5,12の削減を促進

※2018年6月：SBT認証取得（化学セクターで世界初）、2℃目標
2023年3月：SBT認証再取得、1.5℃目標

長期目標達成のためのロードマップ

非化石由来製品売上高 マテリアルリサイクル率



廃プラスチックのマテリアルへの再資源化計画

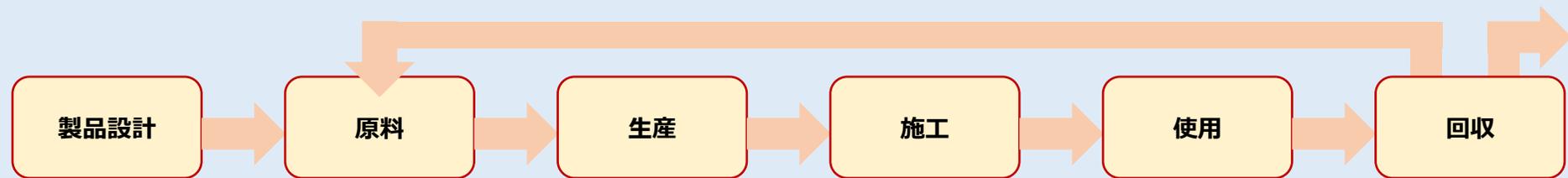
Phase	実施事項	FY23	FY24	FY25	FY28	FY30
【Phase1】 既存技術活用	● リサイクラーの適合性見直し	▶ ●				▶ 内容拡充継続
	● 混合物の分別徹底		▶ ●			▶
	● 圧縮/粉砕による ①保管性向上 ②輸送効率改善		▶ ●			▶
【Phase2】 新規マテリアル リサイクル技術導入	新しいマテリアルリサイクル技術の確立 1. 難リサイクル材の対象に応じた技術 の見極めと適用 2. 運用方法の確立		▶	▶ ●		
					▶	▶ ●
【Phase3】 ケミカルリサイクル技術を 活用した総仕上げ	ケミカルリサイクル技術(BR技術など) の活用 他社連携による加速				▶	▶ ●

●:マテリアルリサイクル率UP効果発現開始期待時期

**工場廃棄物の再生、マテリアル化へ取り組むことですべての製品の再資源化技術を確立
循環型の製品ライフサイクルへの移行を実現していく
⇒ 現在の課題は、確立した技術の社会実装**

住インフラ建材を提供する会社では循環型のものづくりに取り組むことが事業競争力につながると判断

“プラスチック資源循環検討会”

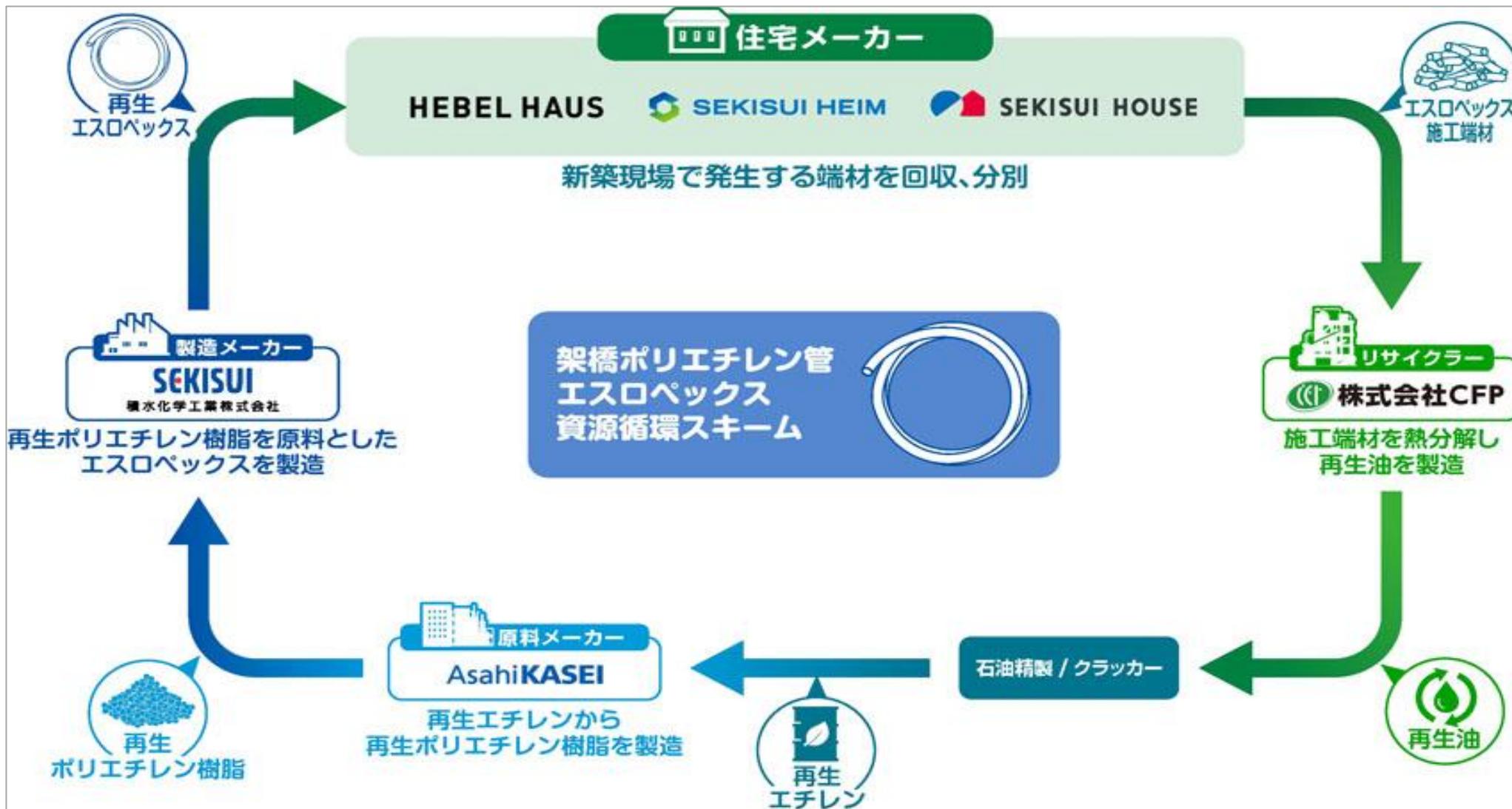


製品の一生を通して、メーカーの立ち位置で資源循環を実現する

検討視点	主幹部署	
全体構想・組立、事業競争力、採算性	事業部	事業的視点
実体把握、実現性、投資、実行	工場	実現性
技術開発、環境性評価	研究所	新規性

各部門連携で、経営の持続・事業競争力向上・社会課題解決への貢献加速

【架橋ポリエチレン管「エスロベックス」の資源循環スキーム図】



住宅の建築現場で発生する給水給湯管の施工端材を回収。製品として再生し、施工するスキームの構築を目指す

原料を調達する、製品をつくる、使う、廃棄する。そのすべての過程において、環境や社会課題の解決に貢献。
 私たちは、サステナビリティ貢献製品に取り組むことによって、その動きをいっそう加速させています。

DR制度

SEKISUIが貢献できること。

製品を生み出す側の責任として、
 自社内の環境・社会への配慮を徹底。
 原材料の調達から製品開発、
 そして工場での生産にいたるまでの
 製品ライフサイクルの全てにおいて、
 環境への負荷を低減し、
 倫理・規範を順守しています。

②製品開発
 サステナビリティ
 貢献製品を
 企画・開発する

③生産
 多様な人材を採用し、
 従業員の安全や
 地球環境に配慮した
 ものづくりを推進する

※サステナビリティ貢献製品とは：
 温室効果ガス排出削減、廃棄物
 削減、原材料削減、生物多様性
 保全などの対応方法ごとに自社認
 定基準を定めて登録。社外アドバ
 イザーボードの設置によって、基準
 の高さと透明性を担保しています。

①原料調達
 倫理に即した取引先を
 選び、責任ある行動を
 働きかける

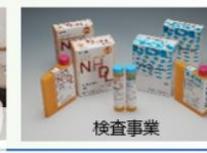


④物流
 地球・社会への影響を
 配慮してお客様に届ける

お客様が貢献できること。

お客様に製品をお使いいただくことで、
 再生可能エネルギーの活用による
 温室効果ガスの削減や、
 資源の有効活用、健康寿命の延長など、
 地球や社会への様々な貢献を実現しています。

製品を使う人々の
 健康に貢献する



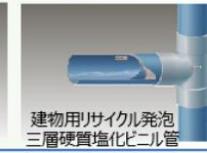
消費エネルギーを
 減らして省エネに
 貢献する



再生可能エネルギー
 を活用して、創エネ、
 蓄エネに貢献する



廃棄物の削減や
 リサイクルの促進で、
 資源を有効活用す
 る



水リスクを低減し、
 災害を抑制する

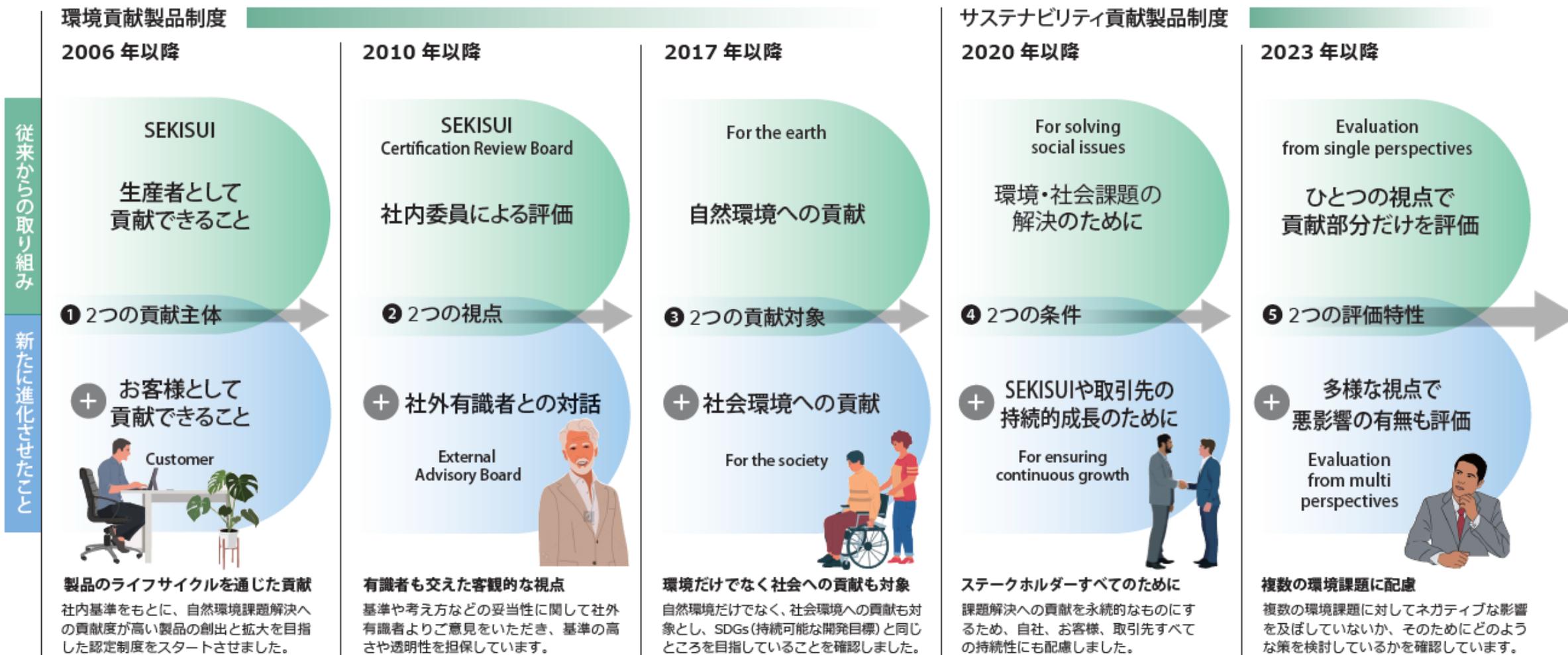


サステナビリティ 貢献製品制度

2006年に「環境貢献製品」としてスタートしたSEKISUIの「サステナビリティ貢献製品」認定制度は、年々進化を続けてきました。

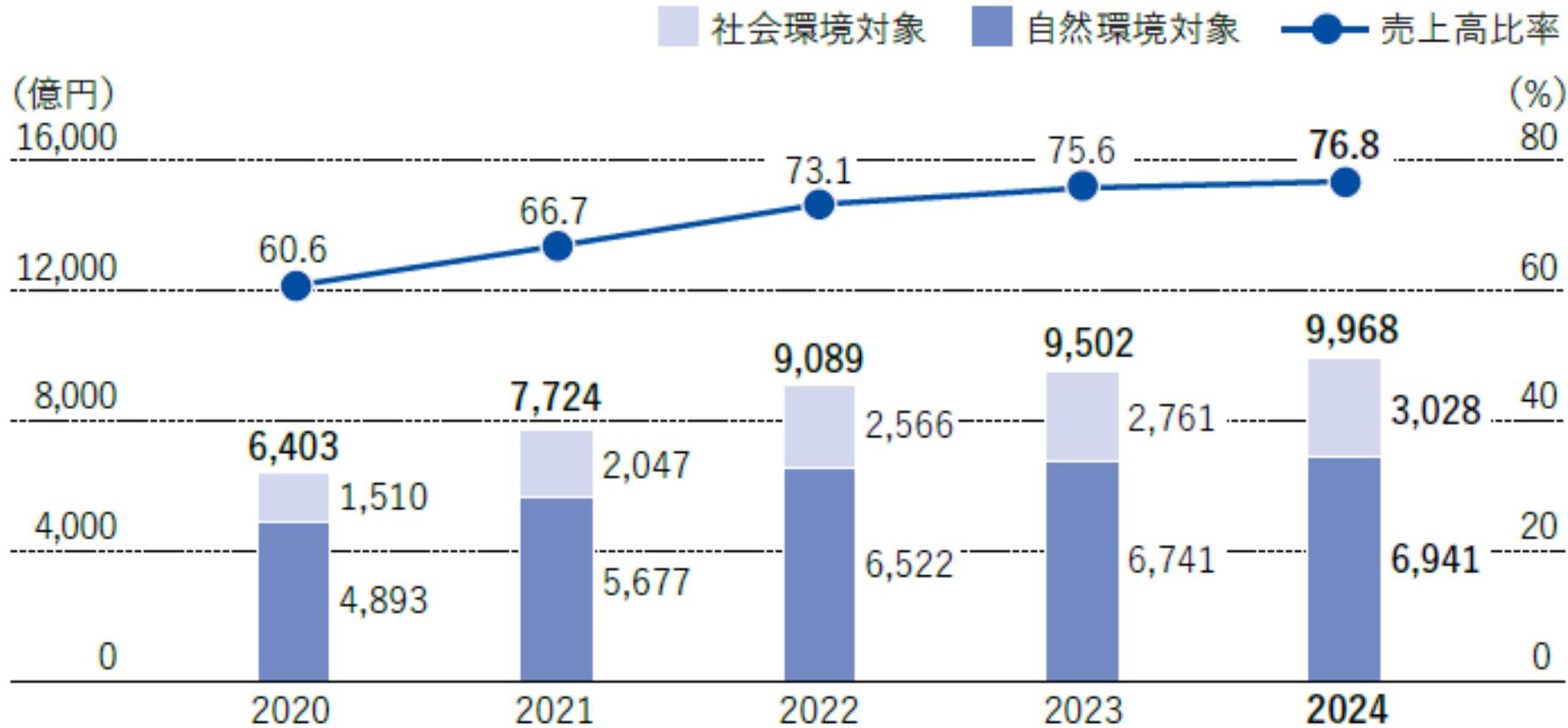
SEKISUIが、自然環境へのよりいっそうの貢献をめざして「環境貢献製品」制度をスタートさせたのが2006年。

以後、その内容を年々進化させ、よりレベルの高いESG経営を実現する「サステナビリティ貢献製品」制度として、グループ全体で推進しています。



従来からの取り組み

新たに進化させたこと



サステナビリティ貢献製品の売上高推移

(単位:億円)

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
住宅カンパニー	3,529	3,938	4,486	4,343	4,371
環境・ライフラインカンパニー	932	1,013	1,521	1,628	1,692
高機能プラスチックカンパニー	1,219	1,869	2,185	2,602	2,910
メディカル+その他 ^{*1}	722	904	896	929	995
全社合計	6,403	7,724	9,089	9,502	9,968

**サステナビリティ貢献製品による
売上拡大
⇒社会課題解決によって企業成長**

[評価のバウンダリ] ⇒ 原料調達～生産でのCFP算出を実施

- 大半の管材製品は**使用時におけるCO₂の発生は、ほとんどない**。
そのため、原料調達～生産の境界での計算により、
ライフサイクルにおける、ほとんどのCO₂排出量は算定して
いると考えられる。



架橋ポリエチレン管
**エスロベックス
コルゲートウォーム**

高い保温性を持ち、被覆保温材部の耐傷性と伸縮性を向上で、現場の易施工に貢献。

Website

CO₂排出量計算結果

試算条件 | 機能単位:13A、長さ1m

約32%

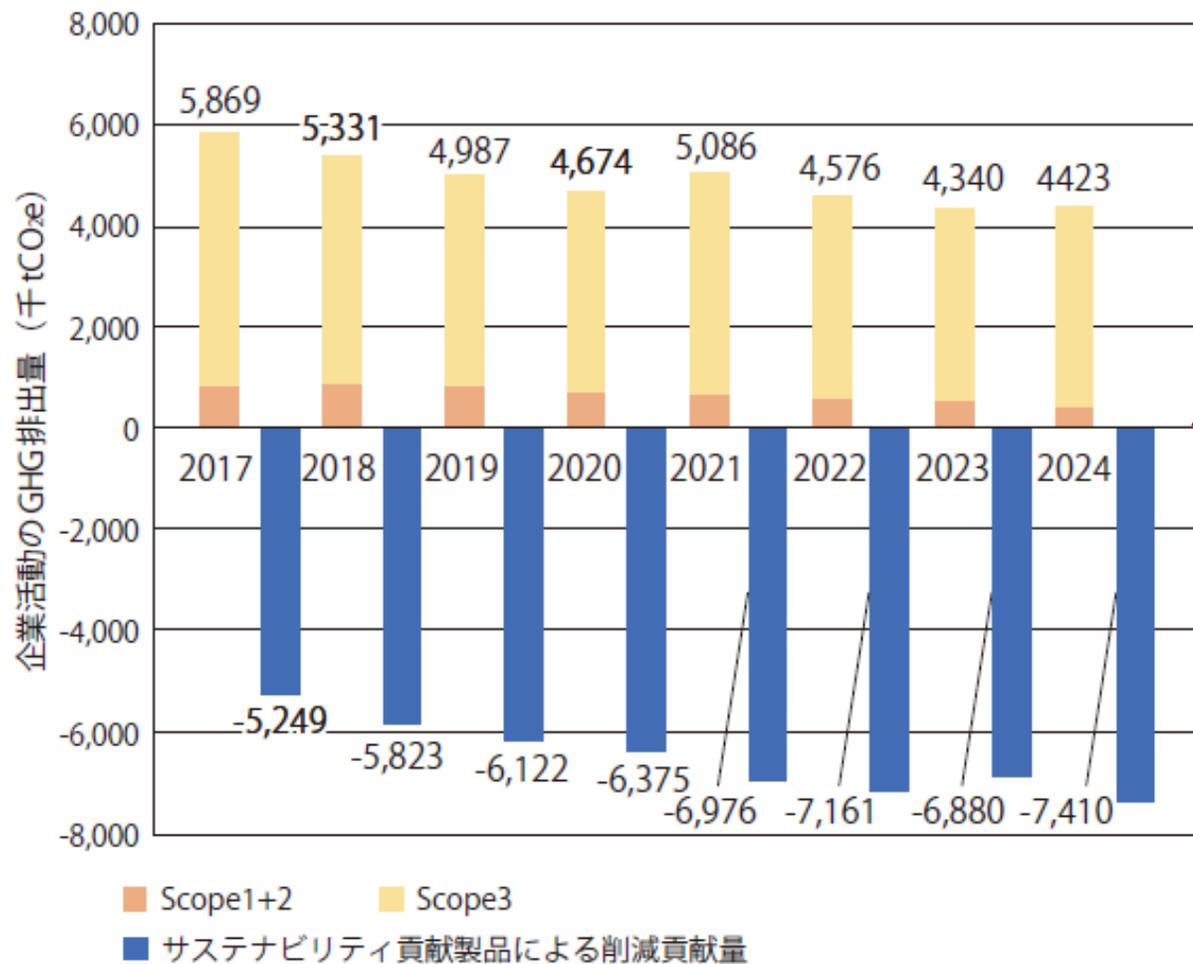
100%

エスロベックスコルゲートウォーム

被覆鋼管*

※比較品参考値

営業マン教育を実施し、製品のCFPおよび削減貢献データを
活用したマーケティング活動を継続中



製品による温室効果ガス削減貢献量*の開示 (2024年度)

分野	備考	CO ₂ 削減量(千tCO ₂)
住宅	ソーラーパネル、HEMS、蓄電池設置により、創エネ、省エネ、蓄エネの観点からエネルギー問題を解決	1,349
インフラ	老朽化した管を更新する非開削工法では、資源・廃棄物の削減に加え、施工の際に車輛通行を止める距離を短縮できるため、渋滞緩和の低減による走行の燃費を向上	418
車輛・輸送	車両のフロントガラスに使用される合せガラス用中間膜。遮熱、遮音を有する高性能膜は車輛の軽量化やカーエアコンの効率を向上させるなど燃費削減に貢献	4,755
電子材料	省エネ性であるLEDの性能発現に寄与する中間素材など	688
その他	-	200
TOTAL		7,410

※削減貢献量は、早稲田大学の伊坪教授らによって開発された「LIME2」が搭載された「MiLCA」を使用し全環境側面への影響を計算。上記ではCO₂排出量のみを抽出し、掲載。

サステナビリティ貢献製品による社会の低炭素化への貢献 = 社会の便益

SEKISUI